



2月11日（火）の午後、伊那市防災コミュニティセンターにて、上伊那の高校生が探究活動などに取り組んだ報告をし、最後はグループに分かれて地域の方との交流をしました。

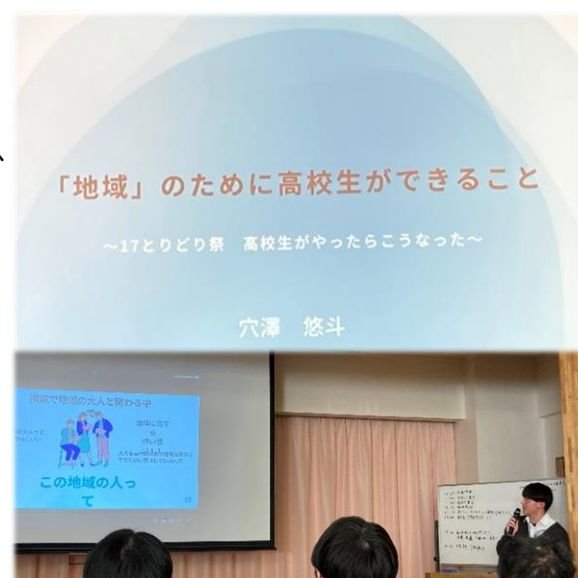
長野県経営者協会上伊那支部に上伊那高等学校長会が、高校生の探究活動や海外留学等の学びの機会への支援をお願いし、今年度 16 企業から 81 万円の寄付をいただきました。ご寄付をいただいた企業の方々を含め地域の方 100 名余が参加をし、高校生の発表を聞きました（上伊那の全日制・多部制単位制の高校すべてが発表）。

今年度の全国高等学校ロボット競技大会に優勝・準優勝した駒ヶ根工業高校のロボット研究製作部が大会と同じ実演を行いました。また、同校の機械科では、小型人工衛星の打ち上げのチャレンジをしており、夢のあるプロジェクトのこれまでの苦労話も聞くことができました。

上伊那農業高校生命探究科動物コースによるキノコの栽培後に出る「廃菌床」を牛の飼料として活用する研究を聞きました。数年間をかけて先輩から後輩へと受け継ぐ研究であり、大学や県の機関の協力を得て分析を積み重ね、価格高騰に苦しむ酪農農家や畜産農家のため、また、牛の血中コレステロール値の低下による肝機能の回復から牛のためにも、持続可能な畜産への素晴らしい挑戦の発表でした。

伊那北高校、高遠高校、辰野高校の発表では、台湾やカンボジアへの研修や交流が行われており、海外へ足を運んで見聞きしたこと、オンライン交流を通した海外の高校生との情報交換から、高校生の大きな意識の変容を感じました。

そして、本校2年生の穴澤悠斗君は、伊那北駅前を中心とした市街地の活性化をねらった「17とりどり祭」の実行委員として参加した経験からの地域活性化への思いと今後の課題についての発表をしました。本校令和3年度の卒業生で都留文科大学3年生の赤津裕太君も参加しており、一緒に見ていました。赤津君は試験も終わり、今は、都留市の地域活性化の事業に参加しているとのこと。大学生の有効な時間を活用し有意義な活動をしていて頼もしい限りです。



穴澤悠斗君の発表の様子

今回の催しに参加した地域の方々は、高校生の発表に刺激をもらったのではないかと思います。高校生は、発表した経験値だけでなく、地域の人との交流や人とのつながりの大切さをお土産に、大きく育ってほしいと願いました。